

タイ国政府観光庁（TAT）主催 FAMツアー

シニア層市場開拓の鍵は「Health & Wellness」 タイで健康や心身の癒しを得る旅を楽しむ



石灰岩の岩壁にエメラルドグリーン海が映える「プラナン・ビーチ」

4月20日から24日にわたり、タイ国政府観光庁（TAT）主催のFAMツアーが実施された。ツアーのメインイベントはバンコクで開催された「Amazing Thailand Health & Wellness Trade Meet 2026」への参加。また、多彩なアクティビティが体験でき、知られざる魅力を持つビーチリゾート・クラブにも訪問。その様子を紹介する。（文・写真：吉川明子）

日本のロンジェビティ市場に 高水準のウェルネスを

2026年4月23日、TATはモーベンピックBDMSウェルネスリゾートバンコクで「Amazing Thailand Health & Wellness Trade Meet 2026」を開催。TATは1月から新たなグローバルキャンペーン「Healing Journey Thailand」をスタートさせており、「Healing is the New Luxury（癒やしこそ、新しいラグジュアリー）」をキャッチフレーズに掲げている。

オープニングセッションに登壇した、TATのターパニー・キアットパイブーン総裁は、今回のイベント開催の狙いについて「ウェルネスを通じて高付加価値観光を強化するというタイの明確な方向性を反映したものだ」と述べた。そのうえで「タイは卓越した医療、包括的なウェルネス、自然の恵み、タイならではのホスピタリティといった強みを統合的に活かすことで、価値の高い体験を提供できる。われわれは世界有数のウェルネス拠点になるという目標に向けて引き続き発展を続けていきたい」と意気込みを示した。

また、ターパニー総裁は本紙との取材にも応じ、ウェルネス・ツーリズム推進への取り組みについて「われわれは、タイの医療、健康、ウェルネスの各分野に対するサービス水準は世界トップクラスであると自負している。今後はヘルス&ウェルネスに関する広報活動をさらに強化していく」考えを示した。

日本市場に対してはシニア層への訴求に注力していく方針だ。ターパニー総裁は「日本における最大の課題は、健康寿命を延ばして心身ともに活力ある生活を維持することを意識するロンジェビティ（長寿）市場にどのように食い込んでいくかということだ。日本は高齢者がますます増えている。そこでタイの情報をいかに



「Amazing Thailand Health & Wellness Trade Meet 2026」に登壇するターパニー・キアットパイブーン TAT総裁

して日本のシニア層に届けるかがカギであると考えている」と指摘した。そして「タイには、人生をより長く、意味のあるものとして過ごせる環境を創り出せる観光資源がある。これこそが日本の人々が求めているものだ」と述べ、その1つのコンテンツとしてウェルネス・ツーリズムを位置付けていきたい考えをアピールした。

会場にはタイの健康・ウェルネス関連事業者92社などが集まり、ビジネスマッチングの機会が設けられ、FAMツアーに参加している旅行会社の担当者も商談に臨んだ。また、各国から集まったメディアを対象に、「BDMSウェルネスクリニック」や「サミティベート病院スクムビット」への視察も実施。「BDMSウェルネスクリニック」は、人間ドック、歯科治療、不妊治療など最新医療を生かしたサービスを提供。高級ホテルのような空間で、健康維持のための多彩なサポートを受けることができる。

在住日本人にはよく知られている「サミティベート病院スクムビット」は、日本人または日本語ができる医師や看護師などが常駐し、日本人相談窓口、日本人専用健康診断センターや日本人専門病棟を有している。小児医療も充実しており、小児呼吸器科、アレルギー科、発達行動小児科など各種専門科の診察に対応。旅行中の体調不良や怪我に見舞われた時の強い味方になりそうだ。



「Amazing Thailand Health & Wellness Trade Meet 2026」の商談会の様子

ケンピンスキーもウェルネスがテーマ

今回、FAMでバンコクで滞在したのは、「サイアム・ケンピンスキー・ホテル・バンコク」と「シントーン・ケンピンスキー・ホテル・バンコク」。前者は美しい庭園とプールを擁した空間で、バンコクの中心地・サイアムという利便性の高い場所にいることを忘れてしまいそうになる。客室からプールに直接エントリーできる「カバナ・プール・アクセス」、壁面に動物などが描かれた子供部屋付きの「チームド・ファミリー・スイート」など、多彩な客室がある。

タイ国政府観光庁（TAT）主催 FAMツアー

後者は2020年10月にバンコク2番目のケンピンスキーとして開業。ルンピニ公園近くの高級コンドミニアムなどが立ち並ぶ地域で、隠れ家的な雰囲気がある。モノトーンを基調としたシックな内装で、ロビーラウンジはアフタヌーンティーが人気。

ホテルのコンセプトは「ウェルネス・サンクチュアリー」で、9、10階にはインフィニティ・プール、最新鋭のマシンが揃ったジム、スチームサウナ、ヴィシーシャワーなどを備えたスパなどがあり、ウェルネス施設の充実ぶりは目を見張るものがある。客室は66㎡以上という広さを確保。全室バルコニー付きというラグジュアリーな造りが魅力。バンコクの喧騒を忘れ、客室やスパでゆったりとした時間を過ごしたくなる。「ワン・バンコク」や、昨年9月に開業した「セントラル・パーク」といった大型商業施設にも近く、ショッピングも楽しめる。



サイアムエリアのオアシスとも言える「サイアム・ケンピンスキー・ホテル・バンコク」



「シントーン・ケンピンスキー・ホテル・バンコク」のグランド・デラックス・ルーム

ビーチだけではない、クラブの魅力

今回のツアーでは、タイ南部のアンダマン海に面したクラブも訪問した。バンコクから飛行機で約1時間20分、プーケットからも車で2時間半ほどでアクセスできるが、日本人観光客があまり訪れない日本人にとっては未知のビーチ・リゾートだ。

沖に点在する130以上の島々を船で訪れるアイランド・ホッピングが人気だが、シュノーケリングなどのマリナクティビティはもちろん、カヤックやロッククライミング、川下りなど、大自然を満喫できるのが魅力。

アイランド・ホッピングで必ず訪れたいのがプラナン岬の「プラナン・ビーチ」だ。「ライレイ・イースト・ビーチ」から上陸し、岩壁沿いの道を歩くこと約5分で到着する。石灰岩の岩壁や鍾乳洞に囲まれたエメラルドグリーンの海が美しい「プラナン・ビーチ」はまさに秘境のオアシス。ビーチ奥にはパワースポットとして知られる「プラナン洞窟（プリンセス・ケイブ）」があり、子孫繁栄や縁結びにご利益があると言われている。アイランド・ホッピングの途中では、シュノーケリングも楽しめる。波が穏やかで、色とりどりの魚や海底のサンゴ礁を間近に鑑賞できる。



険しい岩山とマングローブ林を眺めながらのシーカヤック

クラブ北部に位置するカオ・ガロスは、険しい石灰岩の岩山やマングローブ林、渓谷などの手つかずの自然が残された穴場的スポット。ここではシーカヤックが楽しめる。船着き場からロングテールボートでスポットに移動し、カヤックに乗り換えて水路を巡る。時折現れる、マングローブの木陰や岩陰は涼やかで、静寂の中で豊かな自然を満喫。野生のサルにも遭遇した。



「エレファント・サンクチュアリー・クラブ」では、象と水浴びを楽しめる

また、クラブ内陸部には、象の自然な生活を尊重し、負担をかけない保護施設「エレファント・サンクチュアリー・クラブ」がある。ここは半日コースで、象の餌作りや餌やり、泥遊び、水浴びなどを体験できる。象は1

日最大250kgの餌を食べ、ひと月あたり数千パーツかかる飼育費や保護活動の費用は、こうしたツアーの収益で賄っている。

滞在したホテルは、2024年9月に開業したクラブ初のスポーツ&ウェルネス特化型リゾートホテル「ヴァラナ・クラブ・ホテル」。広大な敷地からはタブケー湾を一望でき、全長50m、水深2~3mのオリンピックサイズプールやボルダリング施設、ムエタイ用リングなどを擁し、

ヨガなどのさまざまなアクティビティを実施（一部有料）。特筆すべきは、タイ語で水を意味する「ナム」という名のリラクゼーション施設で、天然泥パックやハーブスチーム、温冷水浴、岩盤浴など、75分で10のステップを巡るというもの。水による癒しの効果は抜群で、滞在中は毎日利用したくなるほどだ（有料、客室カテゴリによっては無料）。



「ヴァラナ・クラブ・ホテル」は、敷地内でのハーブ栽培やミツバチの飼育などを行い、廃棄物ゼロを目指すなど、環境に配慮している

円安でも訪れる価値のある渡航先タイ

FAMツアーに参加したHIS JAPAN海外個人営業本部の岩本宏氏は、「円安の影響で渡航を躊躇する人が多い中、タイはそれでも訪れる価値のある素晴らしい国であると改めて実感した。クラブは落ち着いたあるリゾートで、リラックスできる最高のデスティネーションだと感じた。バンコクでは話題のエリア・ソーンワートの散策ツアーや、ケンピンスキーの分泊プランなど、造成のアイデアも得られた」と語った。

また、オーダーメイド旅行専門のティースタイル・鈴木仁氏は、「クラブは手つかずの大自然、新鮮なシーフード、人々の温かさがいい。お客様はもちろん、友人にも勧めたいほど。バンコクのケンピンスキーは、スパや食事のクオリティも非常に高く、バンコク滞在中に自信を持っておすすめできる5つ星ホテルと実感した。ヴァラナ・クラブ・ホテルは日本人スタッフがいても安心できる。トレードミートでも、弊社との相性が良さそうならランドオペレーターとマッチすることができたと、手応えを感じた様子。

大自然に恵まれたクラブや、高級ホテルやヘルスケアに特化したクリニックなどが充実しているバンコクでは、まさに「Healing is the New Luxury（癒やしこそ、新しいラグジュアリー）」を堪能できる。タイは、既存の観光にとどまらない、新たな旅行体験ができるデスティネーションとしてさらなる進化を遂げようとしている。



バンコクの人気エリア「ソーンワート」。かつては問屋街で古い建物が「映えスポット」として注目を集めている。